



東北新幹線「はやぶさ・こまち6号」の列車分離の事象などを踏まえて、 安全な職場を私たちからつくり出していこう！

2024年9月19日8時7分頃、東北新幹線「はやぶさ・こまち6号」が古川～仙台駅間において連結部分が外れたことによる列車分離が発生し、緊急停止となりました。この事象により、5時間にわたり運行を見合わせ、4万5千人に影響が出ました。

連結器の見た目には異常は見られず、仙台新幹線総合車両センターで連結器を中心に原因を調査していますが、未だ原因は明確になっていません。しかし、目視での緊急点検は進められているものの、東北新幹線は、9月20日始発から通常通り運行となっています。

昨年末に新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」と掲示が出されました。その掲示以降、1月23日に東北新幹線 上野～大宮駅間での架線垂下による停電事故と復旧作業中での感電事故や、2月1日には「やまびこ65号」が破損した防護柵と衝撃する事象が発生しました。そして、その後も3月6日には「つばさ121号」が郡山駅停車時に滑走し、ポイントの速度制限は80km/hを大きく上回る145km/hで通過し、所定停止位置から約520mオーバーランする事象、3月29日の東北新幹線大宮～小山駅での送電不良、4月2日の東北新幹線福島～白石蔵王駅間での保守用車からの漏油の事象など、異常事態が続いています。だからこそ、今回の列車分離におけるマスコミ報道での「またか」との記載がお客さまの心境を表しています。

全ての事象には、原因があり、背後要因があります。昨年、会社が発表した「グループ安全計画2028」では「『これまでは想定外であったリスク』を本質の理解により想像し、安全を先取る」としています。しかし、今回の事象で会社は定例記者会見で「速やかに原因を究明し信頼回復に努めたい」と述べているものの「東北新幹線、上越新幹線は運転を始めてから40年以上経過して、さまざまな部品や構造物は少しずつ劣化が進んでいきます。たまたまそういった事象が今年に入ってから続いている…」との認識を示したほか、記者より利用者から安全性への不安が出されていると問われたことに対して「安全性への不安というのは話をごっちゃにしている。（連結が外れた後も）安全に停車したし、お客さまの命に重大な支障が及ぶ事象もなかった」と述べ、利用者の疑問や不安の声に真摯に応えようとしている姿勢は感じられません。

だからこそ、私たちは「自分の命・仲間の命・お客さまの命」を守るため、問題意識を高め、JR東労組としてチェック機能を発揮して、職場を出発点として「危ない」「おかしい」などの違和感を会社・職場全体に発信していかなければなりません。そして、職場の現実・声を基礎に「命」を最大の価値基軸に、「安全」を第一にした職場風土をつくりだしていこうではありませんか！